令和２年度第１回神奈川県がん教育協議会結果について

令和２年度第１回神奈川県がん教育協議会は新型コロナウイルス感染症拡大防止として、書面開催となりました。

日　時　令和２年７月１日（水）～令和２年７月 14 日（火）【回答期限】
出席委員
中川　恵一（東京大学医学部附属病院放射線科准教授）
片山　佳代子（神奈川県立がんセンター臨床研究所がんサバイバーシップ・教育ユニット長主任　研究員）
助友　裕子（日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科教授）
松沢　千恵子（神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表）
長谷川　一男（神奈川県がん患者団体連合会理事）
石井　貴士（公益社団法人神奈川県医師会理事）
鵜塚　康祐（神奈川県 PTA 協議会執行役員）
市川　嘉裕（神奈川県中学校体育連盟研究部会会長）
山下　多美代（神奈川県学校保健連合会養護教諭部会部会長）
山中　毅（神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課教育指導主任）
濵　卓至（神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課長）
幸田　隆（神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課長）

1. 協議会事項について

ア） 令和２年度がん教育総合支援事業計画について【資料６】

承認する・・・11 人
承認しない・・・0 人

結果：承認されました

イ） 令和２年度神奈川県がん教育指導者研修講座開催要項について【資料７】

承認する・・・11 人
承認しない・・・0 人

結果：承認されました

ウ） 令和２年度神奈川県外部講師を活用したがん教育授業実施校について【資料８】

承認する・・・10 人
承認しない・・・0 人
未記入・・・1 人
結果：承認されました

外部講師の活用について　【資料９】

承認する・・・10 人
承認しない・・0 人
未記入・・・1 人

結果：承認されました

エ） がんを知ろう！～指導用補助資料～について【資料 10】

承認する・・・10 人
承認しない・・・0 人
未記入・・・1 人

結果：承認されました

ア）令和２年度がん教育総合支援事業計画について　【資料６】

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

神奈川県ががん教育に取り組んできた歴史の上にたち、教材の改訂や患者団体との研修会など積極的な姿勢を感じました。また比較的評価も行うとのこと。ここまでの事業を行うところはなかなかないと思います。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

神奈川県がん患者団体連合会主催、神奈川県教育委員会、神奈川県がん疾病対策課が共催のがん教育研修会並びにがん教育フォローアップ研修会を計画に入れていただきましてありがとうございます。

イ）具体的な取り組み　第 2 回がん教育 12 月⇒3 月実施予定

イ）令和２年度神奈川県がん教育指導者研修講座開催要項について　【資料７】

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

書面開催は残念に思いましたが、新型感染症の中、確実に歩みを進められると考えます。12 月は会場で行えるといいですね。

保健体育科より回答：新型コロナウイルス感染症の予防のため、状況に応じて研修の開催方法を検討していきたいと思います。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

例年、講義を聞いて終わりになり、やや残念な気がしています。

せっかく先生方がお集まりいただき、研修される場ですので、意見交換の機会をつくっていただけると有難いです。

保健体育課より回答：研修内容を含め、検討いたします。

●神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員　　片山委員

【お願い】

講師の職名について下記のユニット名を加筆していただくことは可能でしょうか？

「がん教育・サバイバーショップ支援研究ユニット長」

保健体育科より回答：今後、対応させていただきます。

ウ）令和２年度神奈川県外部講師を活用したがん教育授業実施校について【資料８】

●神奈川県学校保健体育連合会養護教諭部会　部会長　山下委員

新型コロナ感染予防についても検討した上での実施校選出としてほしい。

保健体育課より回答：新型コロナウイルス感染症予防の対策については、実施校と検討したうえで進めていきたいと思います。

●日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授　　助友委員

がん教育授業（本時案）は、ある程度これまでのモデル授業で蓄積されつつある。しかし、真にがん教育授業が定着するためには、学校教育活動の一部に位置付けられる保証を残すことが肝要である。したがって、本時案のみならず、年間指導計画まで作成したモデルの作成を求めたい。

モデル授業は、コロナ禍での計画的な実施が難しくなる可能性もある。その際、授業の実施を取りやめることで今年度の実績が無くなるのではなく、指導計画について協議する場を設けられたい。

保健体育課より回答：今後、検討させていただきます。

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

外部講師のできることできないこと、その内容や目的を知っていただく機会です。評価も含めて推進していただきたく思います。新型感染症の状況次第では、オンラインでの模索もあってよいと考えます。

保健体育課より回答：オンラインは各学校の実情に合わせて検討していきたいと考えています。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

県がん連がん教育研修会を受講した外部講師を活用して頂きたくよろしくお願いいたします。

●神奈川県保健医療局保健医療部　がん・疾病対策課長　　濵委員

教育関係者等の参観については、新型コロナウイルス対策に充実配慮する様、徹底お願いします。

保健体育課より回答：新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、参観の有無についても検討していきたと思います。

●東京大学医学部附属病院放射線科　准教授　中川委員

より多くの学校での実施がつよく望まれる。

保健体育課より回答：実施校の数については、今後検討していきたいと思います。

エ）外部講師の活用について　【資料９】

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

リスト化に加えそれをどう活用していくか、その段階に入ったと感じています。状況をみつつ、検討すべきです。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

神奈川県教育員会の下、積極的にがん教育を推進して頂けますようお願い致します。

●神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員　　片山委員

文科公表データによると神奈川県の外部講師活用率が近隣県よりも低いことについて議論が必要かと思います。

●東京大学医学部附属病院放射線科　准教授　中川委員

医師会などの協力についても報告がほしい

オ）がんを知ろう！～指導用補助資料～について【資料 10】

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

神奈川県で作成された「がんを知ろう」はまだ、学校で積極的に使われているとは言えないような気がしますが、中学生にとっては内容（文字数）が多すぎるようなことはないでしょうか。スライドの一部だけでも使用できるようにすること、文部省で作成された資料の活用も合わせて推奨されることが望ましいと思います。

●神奈川県保健医療局保健医療部　がん・疾病対策課長　濵委員

令和２年度は、数値等のアップデートの留める必要があります。（コロナ対策のため）

今後、補助教材（県独自のもの）のあり方については要検討です。（廃止も含めて）文科省が公開している小、中、高校の教材を積極的に活用すべきと考えます。

2.その他の「ア）令和２年度神奈川県におけるがん教育の４か年計画について

4　がん教育における今後 4 か年の計画及び目標（案）（1）目標と取組内容

●神奈川県中学校体育連盟研究会　会長　市川委員

中学校においては、示された資料等を活用し授業展開されることをさらに周知したい。

●日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授　　助友委員

（ｐ11）「③がん教育を推進する教職員の育成」については、特に中学校保健体育科の教員への働きかけを強化されたい。例えば、管内研修等で地区ごとの保健体育科の研究活動のモデルと本事業におけるモデル校を同一校とし、地区全体協議する場があるとよいのではないだろうか。がん教育を科学的に指導する中学校が、がん教育のモデルの基本となるであろう。

過去の研修会は、いずれも養護教諭の参加が圧倒的に多い。保健体育科教員の参加強化を望む。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

現状を把握し、課題を見つけ、３本柱で施策を実施し、評価することで次につなげ行く道のりが明らかになっている内容で大変結構だと思います。

外部講師の活用を含めたマニュアルの作成ですが、県がん連でも令和２年度で独自に、10 校のがん教育実施を目標としています。がん教育を受けた外部講師希望者をどのように学校とつなげてゆくかが課題となっています。神奈川県教育委員会、県がん教育協議会が進めるマニュアル作成のためにワーキンググループ立ち上げの際には、がん経験者として参加させていただけますよう、よろしくお願いいたします。

●神奈川県保健医療局保健医療部　がん・疾病対策課長　濵委員

高等学校に応じた教材について（教員が使用する教材について）文科省が公開している各学校区分に応じた参考教材を積極的に活用すべきと考えます。

県が作成しているスライド資料は、国の資料がない時に作成したもので、年代別になっておらず、また、他県との整合性もとれていないことから国の資料に移行し廃止すべきと考えます。なお、国の資料に県独自のデータ（患者数）の追加は必要となります。

●神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員　　片山委員

高等学校用の教材を作成するという案に賛成します。

これまでの教材開発は、検討会発足当時に委員長の中川先生と片山とでコンテンツ決めと内容について担ってきたところがありますが、こうしたエフォートについて我々医療者や研究者が研究業績としてカウントできる形で残していただけると、関わり方も違ってくると思います。（臨床の現場ではガイドラインや教科所作りは個人名が掲載されます。）

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

高校の教材の作成まで行えるのは他県でもなかなかないと感じます。

患者団体（外部講師）との信頼関係は構築されており、マニュアルの作成等に関して協力態勢をとることは可能です。

4　がん教育における今後 4 か年の計画及び目標（案）（2）目標及び評価

●神奈川県中学校体育連盟研究会　会長　市川委員

期間を考慮し、計画的な推進がなされるものと期待している。

●日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授　　助友委員

（ｐ12）「イ　中期目標　具体的な目標」②にワーキンググループの立ち上げがあげられているが、ここに中学校保健体育科を入れると良い。

（ｐ12）「ウ　短期目標　評価」③に研修講座参加者増加のための管理職への依頼があげられているが、これ以上に管理職には、カリキュラムマネジメントの視点にたった学校経営モデルの作成を依頼してはどうだろうか。社会に開かれた教育課程の実現に向けたモデルを視野に入れてほ

しい。それを資料としてワーキンググループに提供し、マニュアルに盛り込んではどうだろうか。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

中、長期目標を作成して頂き、大変嬉しく思います。目標成就のため、４年間、途切れることなく進んでいけるように、事務局の教育委員会の担当者の方には、数年は継続していただきと願っています。

目標として掲げている「がん教育指導者研修講座」の受講に対し、「がん教育」の必要性を管理職に説明して理解を得て、研修参加について促すことは大変結構だと思います。それと共に、平成 27 年度から続いているがん教育指導者研修講座ですが、教育者、医療者の講義だけではなく、研修内容について現場の先生からご意見を頂き、実際にがん教育をされている先生方が共に成果を持ち寄って発表する機会や、その先生方と外部講師が交流できる場を設けていただけると、より活発な研修会になるのではないかと思います。ご検討宜しくお願い致します。

●神奈川県保健医療局保健医療部　がん・疾病対策課長　濵委員

新学習指導要領に沿った国の教材を活用したものとすべきです。なお、外部講師の資料はある程度講師にまかせる方がよいと思います。

●神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員　　片山委員

長期、中期、短期目標と具体的な目標が掲げられ、わかりやすくなりました。もし、加筆をするとするならば、がん教育のそもそもの目標にどのように近づけていくのかロジックモデルで示してはどうでしょうか？

例えば、

短期目標→中期目標→長期目標→全体目標

「がんを通じて様々な病気について理解を深め、健康と命の大切さについて主体的に考えることのできる児童生徒を育成する」（最終的にここを目指す）

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

短期的な目標においてマニュアルの作成とあります。ぜひ、現場の教師（保健体育・養護・その他の科目含め）さらに患者団体や医療者などが参画していただきたい。患者団体から推薦してよければいたします。実効力のある取り組みを感じました。

4　がん教育における今後 4 か年の計画及び目標（案）　全体を通じて

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

質問です。

13 ページのイメージ（案）の目標として（学校を主体とするがん教育を推進する）とありますが、かつては、神奈川県（中川先生）の教材を活用して、そのあと「がんを経験されたから話を聞いてみよう！」ということで 10 分から 15 分がん体験者が話すモデル授業が実施されていましたが、ここ 2 年間は、医療者とがん体験者の日程調整や費用の面で、問題があるとのことで、医療者かがん体験者がそれぞれ、がん教育を行う形がとられてきました。今後の目標として、文部省の指導要領

に含まれたということで、保健体育の先生が教材を使って授業をされた後に、体験者が語るということが推奨されるということでしょうか。今年度そのような形でモデル授業を実施してゆかれますか。教材のみの授業だと、肺がんというとタバコを吸っていたからなるというイメージが強く印象に残ったりしますが、実際にはタバコを吸ったことがない人もたくさんいます。食事に気をつけ、年に１度検診を受け、適度に運動して適正体重を保っていても、がんにかかる人はいます。そのことを含めてがん体験者が補足的にお話させていただくのは大切だと思います。

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

わかりやすく、現状、課題認識、目標設定、WG、育成など、進むべき道が示されました。委員でもあり外部講師として貢献しようと考える患者団体でもあります。神奈川県のがん教育が広まり、生徒たちの生きる力となるようご協力させて下さい。よろしくお願いします。

●神奈川県中学校体育連盟研究会　会長　市川委員

中学校保健体育教員にとっては、たいへん有意義な計画や目標である。今後もさらに活用していきたい。

●神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員　　片山委員

4か年という期間をかけて、神奈川のがん教育をどのように推進していくのかが、わかりやすくまとめられていると思います。これまでの単年計画では、とりあえず一年を乗り切ること自体が目標になっていた感が否めません。

今後、誰が（どこが）、何を、（こういう根拠があるから）しなければならないのかが、明確になったように感じます。どうしても一部署で完結する事業ではなく、行政、教育、研究、患者さんらとの連携が不可欠です。

その点を踏まえ、協力しながら進めていきたいと思います。そして神奈川県のオリジナルがん教育（つまりは先駆的な取り組みとして）、の構築を目指していければよいと思います。

●神奈川県保健医療局保健医療部　がん・疾病対策課長　濵委員

中学において新しい学習指導要領になるR3年度以降は、国の統一的な教材に変更する様検討お願いします。

3　その他、御意見

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表　　松沢委員

コロナ感染予防対策のための休校が続きました。そのことが、令和２年度のがん教育にどの程度影響を与えると思われるかについてお聞きしたいです。

①学校では実際どの程度、授業日数が不足している状況なのか。

②外部講師が学校に訪問できるか、オンラインでの可能性も考えておいた方が良いのか。

③外部講師が対応できるとしても、学校でのオンライン授業の受け入れ態勢はあるのか。

●神奈川県がん患者団体連合会理事　　長谷川委員

新型感染症の中がん教育の歩みをとめない具体策(オンラインなど)は患者団体として提案できると思います。

●神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員　　片山委員

①がん教育協議会の事務局の役割の大きさはこれまでにも提言して参りました。担当される先生が一年で異動になるというサイクルが続くことに憤りを感じざるを得ません。扇の要となる大変重要なポストだと思いますので、県がん教育の推進を考えるのであれば、ここはぜひご配慮いただきたい点であります。

②医療者外部講師リスト化は、現在拠点病院を中心にリストアップしていますが、今後は地域の医師会（資料 11P6）を含め、協力したいと考えている拠点以外の医療者をピックアップする仕組みが必要だと思います。また、患者さんと同様に、医療者であっても準備は必要で、いきなり何ら打合せもせず「がん教育講演」（講演ではなく、教育）になるようなケースは避けなければならないと思います。知っていることと教えることは違うように、何等かのガイドラインづくりと共に、学校と忙しい医療者の間を取り持てるような仕組みづくりも必要かと思います。